

# 作業ヤード整備工事に係る環境保全措置

平成 27 年 6 月 5 日

沖 縄 防 衛 局



## 目 次

1. 計画の概要	1
2. 環境の保全措置の概要	4



## 1. 計画の概要

- ・ キャンプ・シュワブ敷地内の作業ヤード整備のための工事を実施する。
- ・ 整備区域を2つの工区（Ⅰ・Ⅱ工区、図1.1参照）に区分し、既設建築物の解体、土木工事、水路工の順で約8ヶ月間の工事を行う。
- ・ 工事の実施に当たって、沖縄県に対して、赤土等流出防止条例の規定に基づく事業行為通知書を提出している。

### 6) 作業ヤードレイアウト検討

#### (a) 検討条件

ブロック製作・仮置及び石材の仮置ヤードは、代替施設の施工進捗に応じて以下の2箇所を利用するものとしてレイアウトを検討します。

- ・ キャンプ・シュワブ敷地内作業ヤード
- ・ 辺野古地先水面作業ヤード（一部の用地を埋立）



図-2.4.2.40 作業ヤード位置図

#### (b) 作業ヤード別の利用条件

各作業ヤードの用地面積、使用時期及び使用項目を表-2.4.2.12に示します。なお、辺野古地先水面作業ヤードに係る新規埋立用地の使用時期については、後述する新規造成工事の施工計画に基づきます。

キャンプ・シュワブ敷地内作業ヤードの利用用地面積及び時期については、米軍資料及び代替施設本体工事の進捗により設定しています。

表-2.4.2.12 作業ヤード別の利用条件

ヤード使用箇所	平面積	使用開始時期	使用終了時期	使用項目				
				石材 仮置	ブロック 製作	ブロック 仮置	ケーソン 製作	
キャンプ・シュワブ敷地内作業ヤード	6.5 ha	代替施設本体工事 開始5ヶ月前	2年次4ヶ月目	○	○	○	-	
辺野古地先水面 作業ヤード	東側新規埋立用地	1.5 ha	1年次11ヶ月目	5年次4ヶ月目	-	○	○	-
	西側新規埋立用地	1.1 ha	1年次10ヶ月目	5年次4ヶ月目	-	○	○	-
	西側既存陸地	1.8 ha	代替施設本体工事 開始5ヶ月前	5年次4ヶ月目	-	○	○	-
	西側対岸新規埋立用地	2.5 ha	2年次5ヶ月目	5年次4ヶ月目	-	○	○	-
計	6.9 ha							

評価書における作業ヤード位置図、利用条件等  
資料：評価書 p. 2-97~2-98

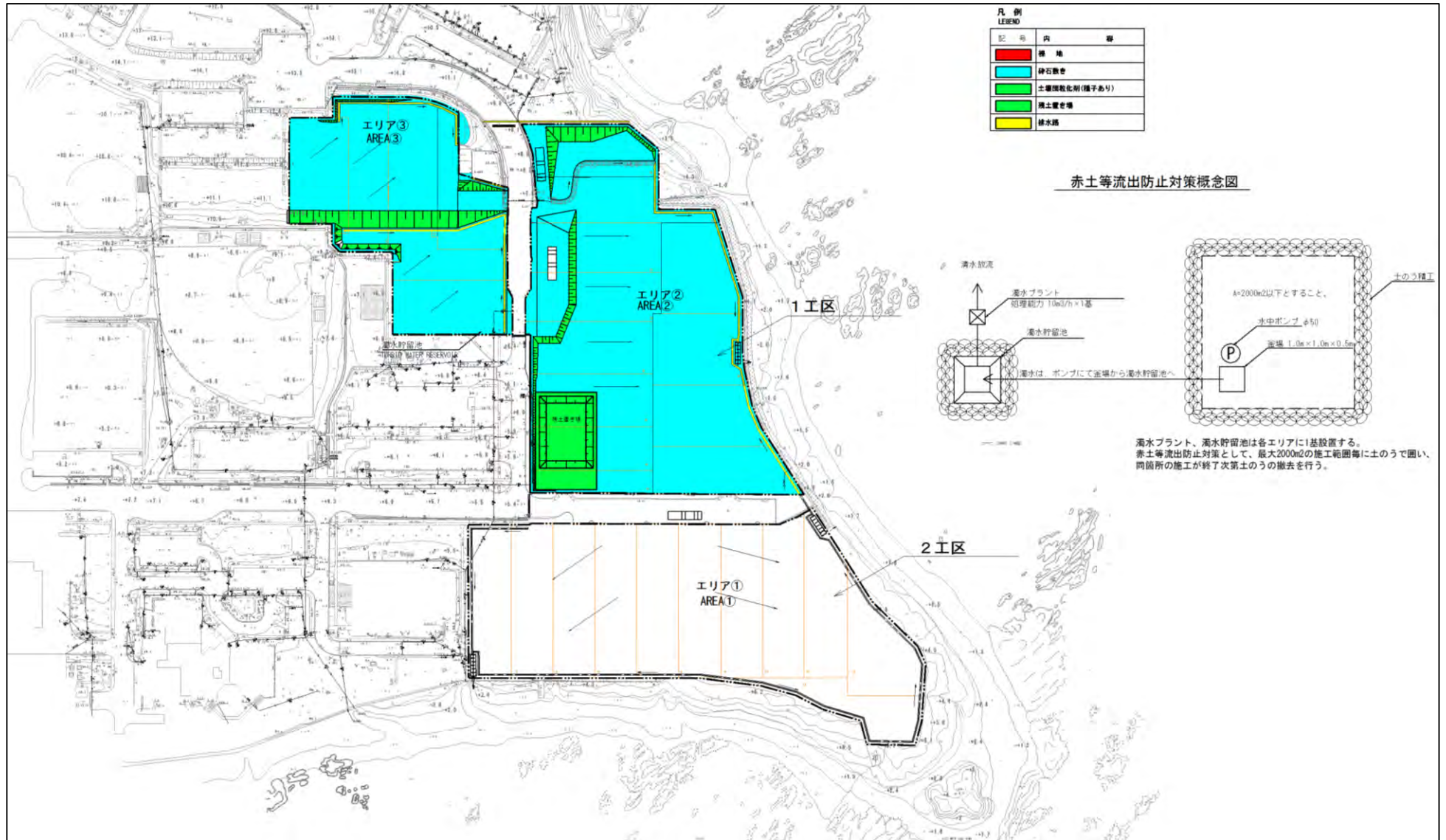


図 1.1(1) 竣工時の作業ヤード平面図 (I 工区)

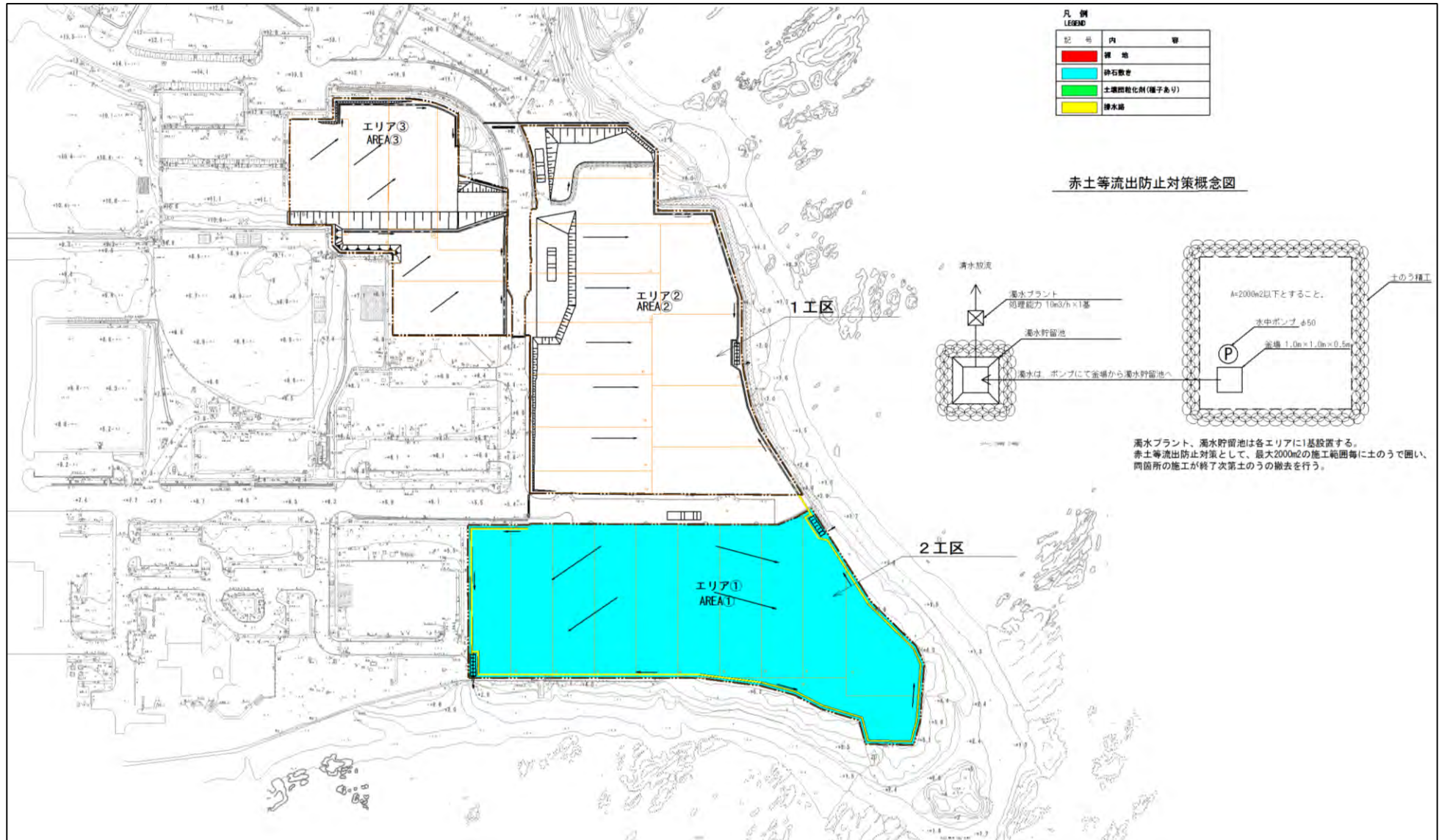


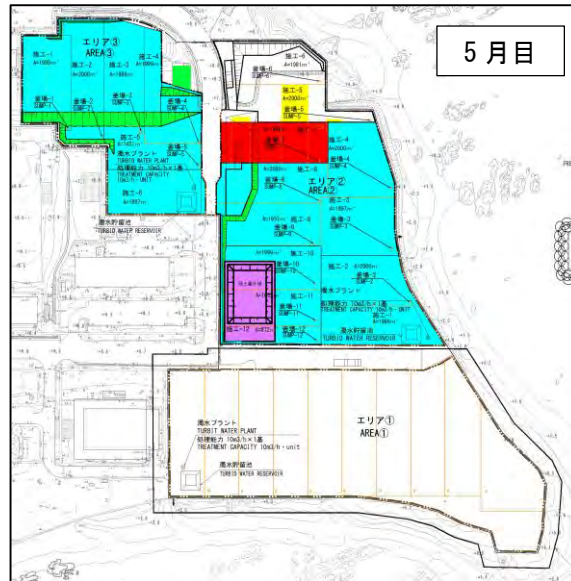
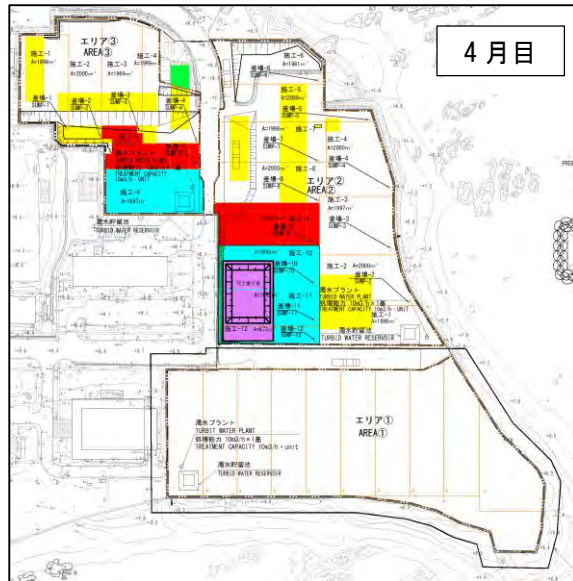
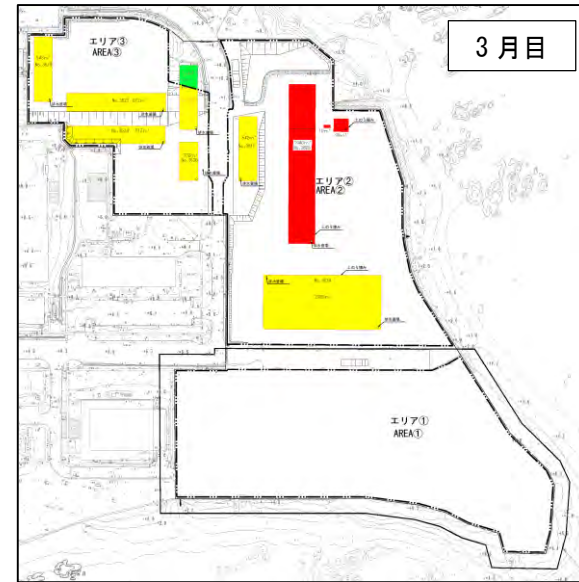
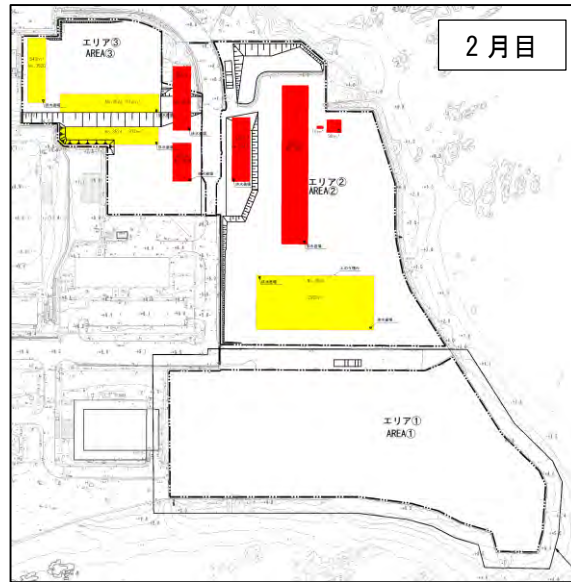
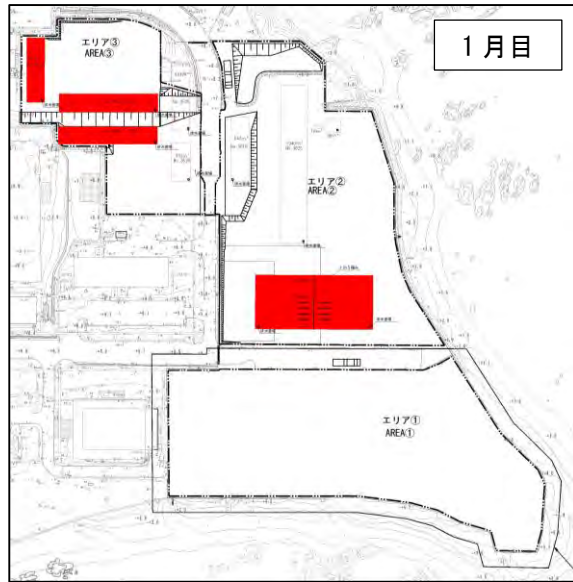
図 1.1(2) 竣工時の作業ヤード平面図 (II 工区)

## 2. 環境保全措置（赤土等流出防止対策工）の概要

- ・ 建築解体工事及び土木工事に当たっては、表 2.1 に示す考え方にしたが、赤土等流出防止対策を講じる。
- ・ 赤土等流出対策工事平面図をⅠ工区について図 2.1 に、Ⅱ工区について図 2.2 に示す。また、赤土等流出防止対策概念図を図 2.2 に、濁水処理システムフロー図を図 2.3 に示す。

表 2.1 建築解体工事及び土木工事における赤土等流出防止対策の考え方

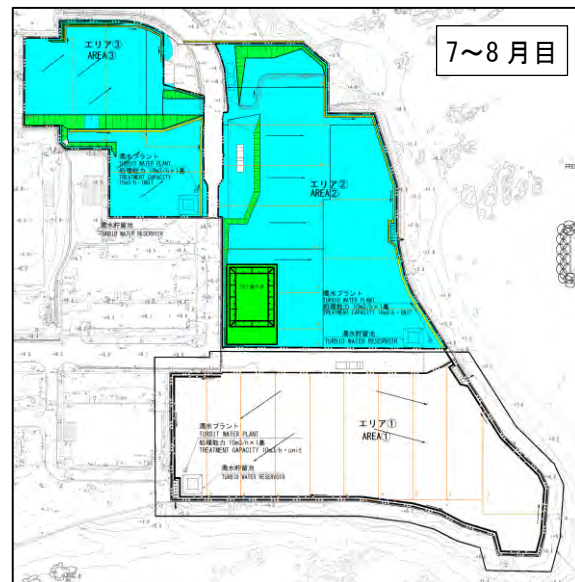
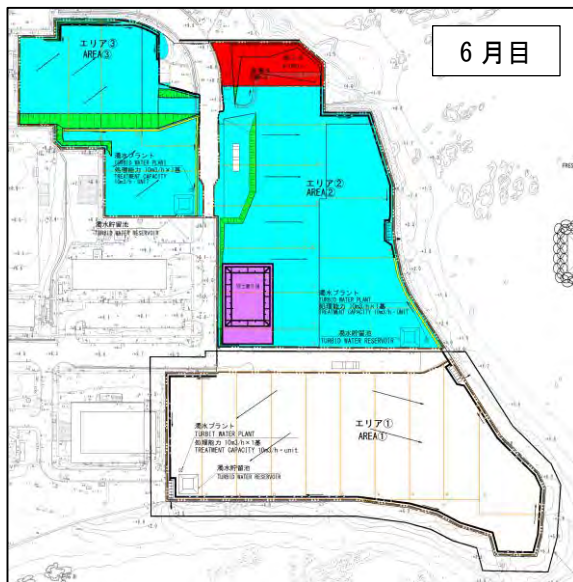
建築解体工事における考え方	土木工事における考え方
<p>①地中梁を撤去する範囲は土のう等で囲み、赤水を出さない工夫を実施する。</p> <p>②1日の施工手順を下記のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1日の施工量を決めて施工の実施をする。</li> <li>・ 床掘を実施して、地中梁を撤去して、埋め戻し、転圧までを1日の仕事として作業を実施する。床掘したままの作業終了はないものとする。また、転圧等の作業が間に合わない場合は、シート養生等で赤水を出さない工夫を実施する。</li> <li>・ 以上のことで、降雨等が作業終了後あっても赤水等が出ないように常に管理する。</li> </ul> <p>③ 施工工期内は、常に天気予報等を確認し降雨による赤水の流出を気にかけて赤水流出をしないように対策をとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 濁水釜場の上部排水から排水する。その時に浮遊物質濃度 25ppm 以下を確認した後に放流する。</li> </ul>	<p>①本工事の作業エリアを 2000m<sup>2</sup>以内に区割りする。</p> <p>②最初の区割り部分を土のうで囲み、敷地造成および構造物の撤去作業等を実施しながら、敷地造成後砕石敷きを実施して、赤土等流出防止対策を完了する。</p> <p>③また、その区割り内には、濁水貯留池と濁水プラント 10m<sup>3</sup>/h を設置することで、土のうで囲ったエリア内の赤水排水は、清水に変えて地区外に排水する。</p> <p>④次の区割りでは、同様に実施するが濁水釜場を設けて、濁水釜場から濁水貯留池にポンプ排水を実施して、濁水を濁水プラント経由で場外排水を実施する。</p> <p>⑤その一連の工程を繰り返し、場内すべてを砕石敷きとして赤土等流出防止対策とする。</p> <p>⑥休みの前には、小堤工、土のう積み等の対策工が機能していることを確認する。</p> <p>⑦施工工期内は、常に天気予報等を確認し降雨による赤水の流出を気にかけて赤水流出をしないように対策をとる。</p> <p>⑧処理水の放流に当たっては、浮遊物質濃度 25ppm 以下を確認した後に放流する。</p>



凡例  
LEGEND

記号	内容
	裸地
	砕石敷き
	土壌団粒化剤(種子あり)
	土壌団粒化剤(種子なし)

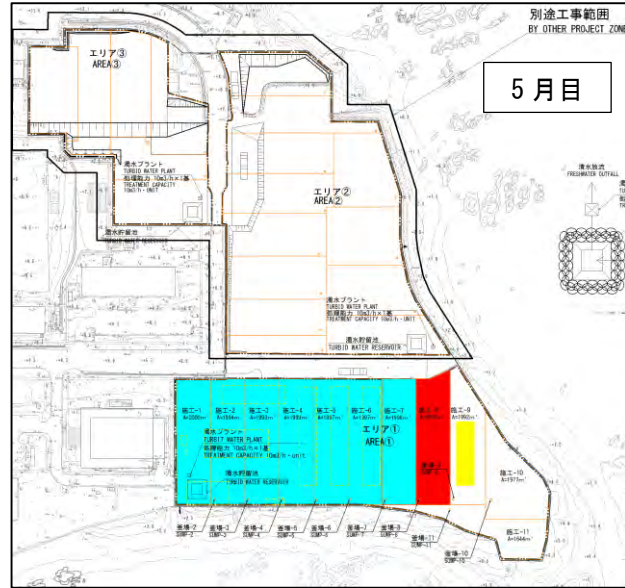
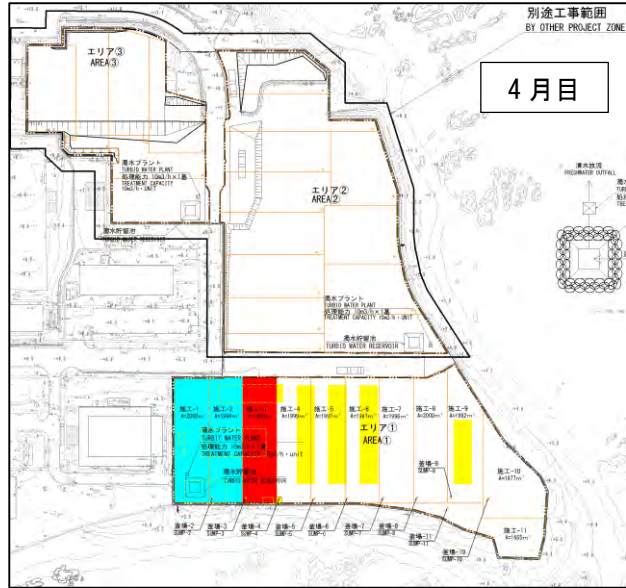
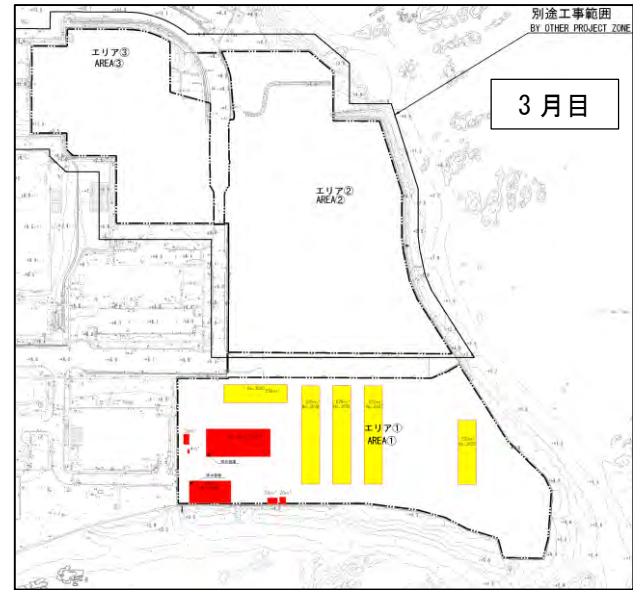
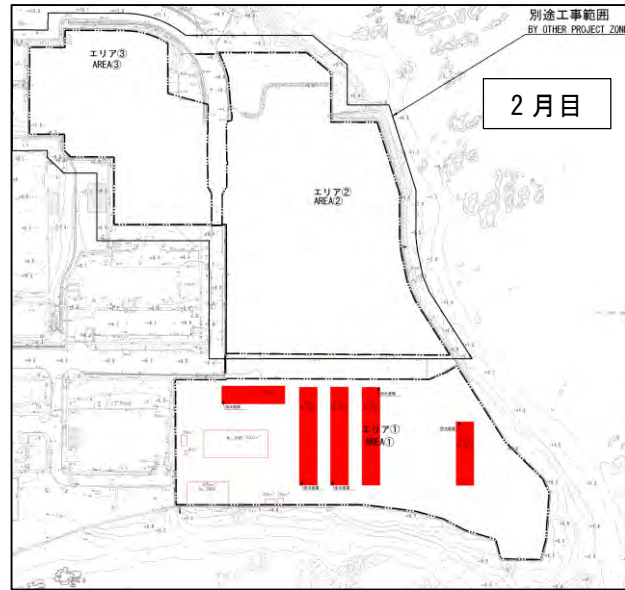
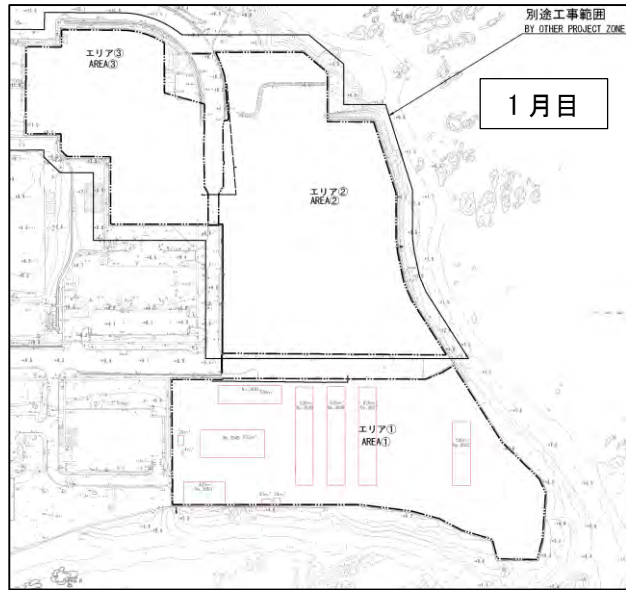
図 2.1(1) 赤土等流出対策工事平面図 (I工区)



凡例  
LEGEND

記号	内容
	裸地
	碎石敷き
	土壌団粒化剤(種子あり)
	土壌団粒化剤(種子なし)

図 2.1(2) 赤土等流出対策工事平面図 (I 工区)



凡例  
LEGEND





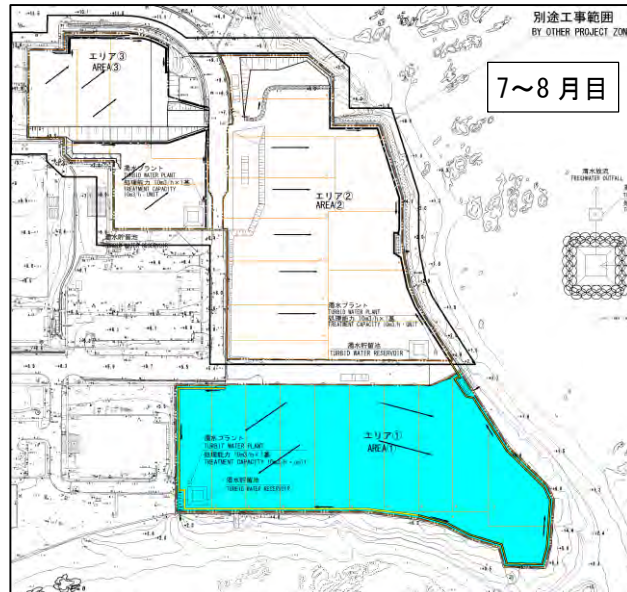
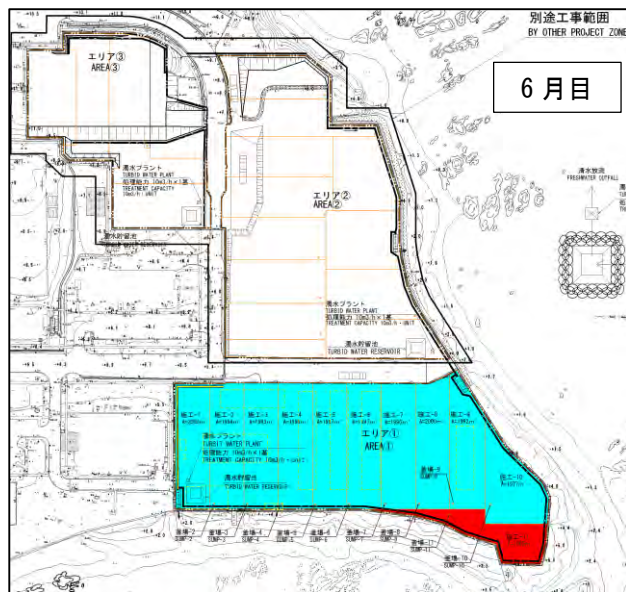
記号	内容
	裸地
	碎石敷き
	土壌団粒化剤(種子あり)
	土壌団粒化剤(種子なし)

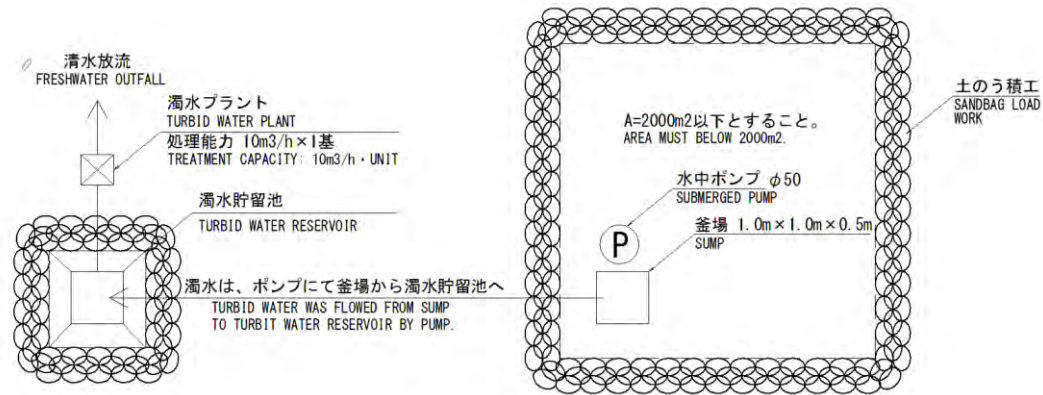
図 2.2(1) 赤土等流出対策工事平面図 (II工区)



凡例  
LEGEND

記号	内容
	裸地
	砕石敷き
	土壌団粒化剤(種子あり)
	土壌団粒化剤(種子なし)

図 2.2(2) 赤土等流出対策工事平面図 (Ⅱ工区)



濁水プラント、濁水貯留池は各エリアに1基設置する。  
赤土等流出防止対策として、最大2000m²の施工範囲毎に土のうで囲い、  
同箇所の施工が終了次第土のうの撤去を行う。

図 2.3 赤土等流出防止対策概念図

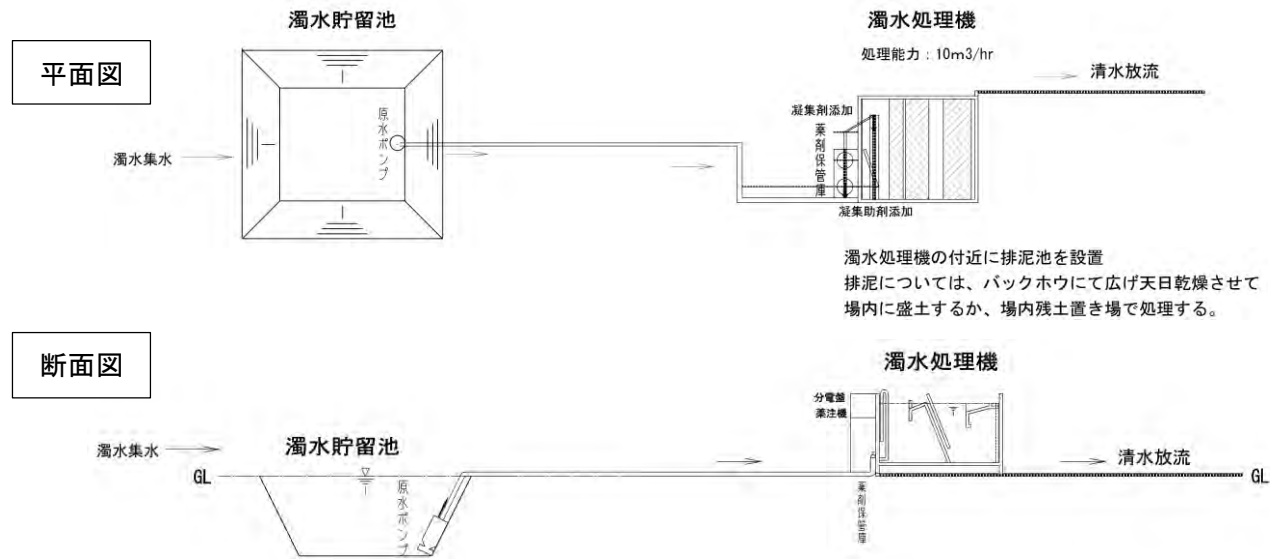


図 2.4 濁水処理システムフロー図